3年生『研究Ⅲ』

１学期の「研究Ⅲ」では、「現代社会のあり方を考える」というテーマで学習を行いました。「コロナウィルスから見えた社会問題」「ＳＤＧｓ」「マイクロプラスチックによる環境問題」といった最新のキーワードを取り上げ、文系・理系の枠を取り払って多角的に議論しました。また、専門家による講義「プラタナスタイム」では、上記のテーマについて考えるのに必要な知識を得るために、東京工業大学名誉教授の本川達雄先生やＮＨＫエンタープライズエグゼクティブプロデューサーの堅達京子氏にご講演をいただきました。そして「2030年問題～持続可能な未来の実現～」というテーマで意見文の作成と議論を行いました。

２学期は、「科学技術のあり方を考える」をテーマとして「デザイナーベビー」について考え、議論します。新たな時代を生きるために必要な教養や価値観および倫理観を身につけることを目指します。

ＳＳＨ校内研究発表会

「研究」に対する理解と意欲を高める目的で、全学年の生徒が参加してのＳＳＨ校内研究発表会を７月19日（月）に行いました。全国ＳＳＨ生徒研究発表会で発表する「福井地震断層の探究Ⅸ」と、「オオカナダモの水質浄化と測定方法の検討」の２つの優れた研究を、zoomを用いて１年生から３年生まで全クラスに対して発表しました。１・２年生からの質疑応答が活発に行われ、課題研究の方法やデータ処理などについて学ぶことができました。また、日本原子力研究開発機構の斉川先生や福井県教育総合研究所の南先生からの助言も頂くことができ、１・２年生にとって今後の探究活動の参考となる貴重な機会となりました。

藤島高校ＳＳＨ事業の報告（令和３年 4月～10月）

令和３年度ＳＳＨ生徒研究発表会

参加生徒：研究ⅡＳ課題研究「福井地震断層の研究Ⅸ」　発表者３名

全国のＳＳＨ指定校224校の代表生徒による研究発表会が、会場での口頭発表、もしくは会場にポスターを掲示での形式で行われました。本校からは３年生の矢島綾乃さんと桒島和帆くん、森瀬陽平くんの３名が参加し、会場で発表をしました。聴衆から投げかけられる質問にテキパキと答えていました。

エンパワーメントプログラム

参加生徒：１年生希望者　67名

内　　容：１年生はエンパワーメントプログラムとして、国内の大学や大学院の留学生を招き、藤島高校で５日間の研修を行いました。英語力とともに、国際性やリーダーシップを伸ばすための貴重な体験となりました。

参加生徒の感想

英語を話すときに大切なことや様々な国のことなど学んだことがたくさんあった。積極的な発表の重要性がよくわかったので、これからの授業でも活かしていきたい。このプログラムを通して、自分の夢がはっきりした。ポジティブに色んなことにチャレンジしていきたい。

理工医セミナー

研究者や医師・看護師の講義、質疑応答等を通して、研究内容や職業上の特性等を学び、興味関心を高揚し将来の進路選択に役立てることを目的として行いました。

第１回　薬学セミナー（５月25日実施）

講　　師：福井県立大学　生物資源学部
　　濱野吉十 教授

参加生徒：１・２年生希望者　52名

内　　容：我々人類が使用している医薬品の約６割は自然界由来のものです。「薬と毒の違い」、「医薬品がどのように探索・発見されるのか」等をテーマに医薬品研究の最前線に関するお話を頂きました。

参加生徒の感想

薬と毒は一見正反対のように思えるが、実際は深く繋がっていることが印象に残りました。薬物の70%は自然界から作られたものであり、いかに薬が天然の資源に依存しているかを思い知らされ、それと同時に今までは気に留めていなかった植物や微生物のことに関心を持てました。その他幅広い話を聞くことができ、とてもおもしろい講座でした。

第２回　医学セミナー（６月24日実施）

講　　師：福井大学医学部医学科
　　林　寛之 教授

参加生徒：１・２年生希望者　60名

内　　容：ＥＲ医として有名な林先生に「総合診療医とは何か」、「ＥＲの救命救急医としての仕事内容や病理判断の難しさ」、「救急医としてのやりがい」などをお話頂き、医者の資質、医者になってからの心構えについて学ぶことができました。

参加生徒の感想

今回林先生のお話をお聞きして、医療現場の現状や医師としての心構えなどを学ぶことができました。患者がたらい回しにされている状況を変えようと、ERの知識を得て福井で活躍しておられる姿に感動しました。また、1分１秒を争う現場での判断力、相手の視点に立って考える大切さ、人間関係を良好にするために大切なことなど、これからの人生で大事なことを教えていただきました。医療現場の仕事は大変なことが多いかも知れませんがやりがいのある仕事であることを改めて感じました。

サイエンスゼミ

身近な現象をテーマとして、実験を通してその現象や技術の基本にある理論を学び、講義や実験指導を受ける中で研究への興味関心を高めることを目的として行いました。

第１回　生物ゼミ（５月５日、６日実施）

内　　容：「遺伝子組換えを体験しよう」

講　　師：本校生物教員

参加生徒：１・２年生希望者　13名

参加生徒の感想

今まで生活している中でよく見る遺伝子組み換えという言葉でしたが、自分でやってみるとより身近なものに感じられてよかったなと思います。今までのイメージだと、顕微鏡などを使ってとても細かい作業をやって、遺伝子を組み換えるというものなのかなと思っていましたが、今回やったものはそうではなくもっと簡単なのかなと思いました。遺伝子組換えしたものの使用用途も知れてよかったです。